

第6 1回技能五輪全国大会「造園」職種愛知県予選 競技課題

次の注意事項及び仕様に従って、指定された区画内に施工図に示す庭園を見栄え良く作庭しなさい。

1 競技時間

4時間30分

- ・選手集合 8:30～8:40 (10分)
- ・競技説明 8:40～8:50 (10分)
- ・準備 8:50～9:00 (10分)
- ・競技 9:00～12:00 (180分)
- ・昼食 12:00～13:00 (60分)
- ・競技 13:00～14:30 (90分)
- ・審査 15:00～15:30 (30分)
- ・講評 15:30～15:40 (10分)

2 注意事項

- (1) 支給された材料の品名、寸法、数量等が「競技用材料（支給材料）」のとおりであることを確認すること。
- (2) 支給された材料に異常がある場合は、申し出ること。
- (3) 競技開始後は、原則として支給材料の再支給はしない。
- (4) 使用工具等は、各自必要と思われるものを使用してよい。ただし、原則として電源を必要とする電動工具の使用は不可とする。
- (5) あらかじめ印をしたり、定規として準備してきた用具などの使用および型紙などの持ち込みを禁止する。
- (6) 競技中は、工具の貸し借りを禁止する。
- (7) 競技中に観客等と話をしたり、指導を受けたと判断されたときは、減点もしくは退場を命ずる事がある。
- (8) 指定された範囲内で、安全に配慮して作業を行うこと。
- (9) 作業時の服装等は、作業に適したものとし、保護帽を着用すること。
なお、保護メガネ、手袋を必要とする作業においては着用すること。
- (10) 競技中は携帯電話、スマートフォン、ウェアブル端末等（メール、時計、電卓の使用を含む）の使用を禁ずる。
- (11) 標準時間を超えて作業を行った場合は、超過時間に応じて減点される。
- (12) 競技中は課題と図面以外の参照を禁止とする。
- (13) 課題と図面にメモ書きを入れて持ち込むことを禁止とする。
- (14) 作業が終了したら、競技委員に申し出ること。

3 仕様

3-1 共通事項

寸法が示された場所は寸法に従うこと。寸法が明示されていない箇所はおおむね図面のように仕上げること。

3-2 石積み

平積みとする。積用石材を使用して、図面の箇所に石積みを行う。天端は揃えるが、端部は段逃げでよい。

3-3 石張り・板石敷き、小舗石・レンガ敷き

支給材料を使用し、図面のような感じに土ぎめで仕上げる。砂目地とする。
レンガは無目地とする。

3-4 枯れ池部分

池周囲は図のようにゴロタ石と棒石で囲う。
池の底にはビニールを敷いてから砂利を入れること。

3-5 柵

柵は支給材料を使用し、詳細図のとおり施工する。
ぬき板は1か所当たりビス2本を使用して固定し、竹はくぎ止めとする。

3-6 植栽・草花

樹木は図面のような感じになるよう土ぎめで植栽し、必要と思われる剪定はしてもよい。
樹種は変更することがある。
図示部分に草花を植栽する。草花は支給材料の中から自由に選んでよい。
右下花壇部分は自由に地形を作ってもよいが、周囲柵部分とはすり合わせること。

3-7 芝の植付け

図面指定部分に、目地なし、目土なしで施工する。

3-8 地均し・整地

土が不足した場合は区画外より入れる。また土が余った場合は、区画内で処理すること。

3-9 片付け

道具を整理し、ゴミをまとめておくこと。

4 支給材料（１組分）

品 名		寸法又は規格（mm）	数 量	備 考
石積用石材（小端積み用）		100～400 内外	所要量	和良石または気良石
敷 石 等	板石	300×600×50程度	4枚	御影石・敷石用
	板石	300×600×30内外	1枚	御影石・加工用
	飛石	300 内外	1枚	
	小舗石（ピンコロ石）	90× 90× 90	50個	
	れんが	210× 100× 60	4個	
	目地用砂	洗砂	所要量	
枯 池 部 分	ゴロタ石	100～200程度	12個	
	棒石	120× 100× 600	2本	
	砂利	25程度	所要量	
	池底用ビニール		所要量	肥料袋で代用
木 柵	木柵用木材（柱）	60×60×3000	1本	
	木柵用木材	75×14×2000（ぬき板）	2本	
	まだけ	まわり60	1本	
	木柵柱固定用L型金具	60×90×3.2	2個	
	ビス	32mm	所要量	
	釘	50	所要量	
植 栽	モミジ	H 1500	1本	
	サザンカ	H 1500	1本	
	低木 サツキ	H 300	2本	
	低木（樹種未定）	H 500	1本	
	下草（地被・草花）	各種	50pot	
	コウライシバ		1束	

5 持参工具

- (1) 必要と思われる工具は持参しても良いが、手作業で行うことを原則とするため電源（発電機も含む）を必要とする電動工具や油圧を使う工具については使用できない。
ただし木柵施工のビス止め等に使用する充電式インパクトドリルについては持参可とする。
- (2) 工具の大きさについては特に指定はないが、通常使用している標準的な工具とする。
- (3) 充電式ドリルの刃を交換してサンダーのように使用することはできない。

6 その他の注意事項

- (1) ベニヤ板を1枚支給するので自由に使用して良い。
- (2) 材料については都合により直前に変更することがある。
- (3) 競技終了後、課題の解体撤去作業を行う。

7 採点項目及び配点

採 点 項 目		配 点
作 品 採 点	客観評価	4 0 点
	出来栄え	5 0 点
作業態度採点		1 0 点
工具の取り扱い		
安全作業		
仕様書・図面の理解		
作業手順		
作業現場の清潔さ		